

設立30周年記念誌

あゆみ

公益社団法人 萩広域シルバー人材センター

設立30周年を迎えて

公益社団法人 萩広域シルバー人材センター
理事長 中村 敏雄



池永 勲前理事長の後を受け継ぎ、本年6月7日に理事長に就任いたしました。どうぞよろしく申し上げます。

昭和61年9月に萩広域シルバー人材センターが設立されて、このたび記念の30周年を迎えることになりましたが、その節目の年にこの職にあることの奇縁を強く感じ入っているところです。

ここに設立30周年の記念の年を迎えるにあたり、改めまして会員の皆様方のたゆまぬご努力と萩市、阿武町をはじめとする関係機関並びに地域住民の皆様方のご理解とご支援、そして歴代役員の皆様方のご尽力に対し深く敬意と感謝を申し上げます。

振り返りますと、萩広域シルバー人材センターは、当初、萩市、長門市、三隅町の2市1町のエリアによる枠組みでスタートいたしました。

その後、幾多の変遷を経た後、行政における平成の大合併に伴い、平成17年4月1日に新萩市と阿武町をエリアとした新たな枠組みで「社団法人 萩広域シルバー人材センター」が誕生しました。

この「社団法人」の冠については、その後における法律改正やこれに伴う全国シルバー人材センター事業協会、山口県シルバー人材センター連合会のご助言などにより、平成24年4月1日に「公益社団法人」に移行することになり、現在に至っております。

この間、国をはじめとする行政機関からの補助金が財政事情を理由に減額又は廃止され、さらには会員数の減少に伴い契約金額も減少するなど、当シルバー人材センターにとっても厳しい財政状況が続いた局面もありました。

しかし、最近になってようやくこれらの減少傾向にも下げ止まり感が出てきたことや、我が国の人口が増加から減少に転じて、改めて高齢者の労働力が見直されてきたこと、そして、国政においても「シルバー人材センターの機能強化を通じ高齢者が活躍する機会の拡大を図る」ことが閣議決定されるなど、将来に向けての明るい兆しも見えはじめたところです。

少子高齢化の進行とともにシルバー人材センターが地域において果たすべき役割は今後もますます大きくなっていくものと考えられます。

当シルバー人材センターにおいても、この設立30周年を機に、改めて国が掲げる「生涯現役社会」の実現に向けて、懸案の会員確保と事業拡大に努めることとし、これからもなお一層地域社会から愛され信頼される存在となるよう努力してまいりたいと思います。

末筆になりますが、関係機関並びに地域住民の皆様方の変わらぬご理解とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げますとともに、会員各位のご健勝とご活躍を心より念じましてごあいさついたします。

お祝いの言葉

萩市長 野村 興児



公益社団法人 萩広域シルバー人材センターの設立30周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昭和61年に貴シルバー人材センターが設立されて以来、長きにわたり「自主・自立・共働・共助」の基本理念のもと、理事長をはじめ役員、会員の皆さまが一丸となって高齢者の方々の能力の活用と福祉の増進に日々ご尽力され、萩広域の高齢者就業機会の確保の推進に対して、多大なご協力をいただいておりますことに、深く敬意を表する次第であります。

我が国の経済は、経済再生実現のため、デフレからの脱却と経済成長を促す経済政策により、緩やかな回復基調が続いていると言われていますが、個人消費の停滞が長期化するなか、日銀のマイナス金利政策によって、一時的な効果は見込めるものの、先行きは不透明となっております。

さて、近年、全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進む中、高齢者が生涯現役として多様な形で社会参加することが求められており、シルバー人材センターは、高齢者の就業機会の推進、生きがいの充実と福祉の増進を図り、地域社会に貢献する組織として、ますます重要性が高まっていくことが期待されています。

特に高齢者施策につきましては、65歳を超えられた団塊の世代の方々が、引き続き何らかの仕事を続けることで、社会とのつながりを希望し、自己にあったライフスタイルを過ごしたいと考える高齢者が増えていることから、これらの方々が活躍できる環境の整備が今後ますます重要となってきます。

萩広域シルバー人材センターにおかれましては、30周年を契機に公益社団法人の原点に戻り、会員、職員等が一体となって組織の整備、会員の増員、就業機会の拡大等を図るとともに、地域社会に貢献し、市民から信頼されるシルバー人材センターの発展に努めていく必要があります。

本市におきましても、健康で働くことに生きがいを求める高齢者の皆さまのニーズに応えられるよう、就業をはじめ、社会参加や奉仕作業の実施を推進するとともに、高齢者の皆さまが萩広域で、自立した生活を継続することができるよう取り組んでまいりますので、皆さまには、より一層の、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、萩広域シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆さま方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

お祝いの言葉

阿武町長 中村 秀明



公益社団法人 萩広域シルバー人材センターが、この度、設立30周年を迎えられましたことに対して心からお慶び申し上げます。

貴センターにおかれましては、設立以来、進行する高齢化社会の中で、高齢者の就業機会の確保のため、会員の方々の技能・特技を活かした様々な分野での業務受注により事業展開をしてこられましたことは、役職員を始め会員の皆様方のご努力の賜であるところから深く敬意を表するものであります。

阿武町におきましても他聞にもれず少子化・高齢化による人口減少社会の進行により、高齢化率は、昨年度末で47パーセントを超えており、特に福賀、宇田郷地区においては50パーセントを超える状況となっております。今後は、住民皆生涯現役を目指し、貴センターと協力しながら、地域の中でいきいきと自分らしく誇りと生きがいを持って生活できるよう、高齢者が本来持っている能力を活かす場づくり・環境づくりなどの生きがい対策の推進を図ってまいりたいと考えております。

人間たれもが、住み慣れた地域で「健康」で「安心」し、かつ、「生きがい」を持って家族や地域の人々と共に生活することを願っております。このようなことから、今や当地域におきまして、貴センターの果たす役割は益々増大し、なくてはならない存在となつてくるものと考えております。今後さらに事業拡大が図られ、地域社会の活性化に貢献されることを期待しております。

最後になりましたが、貴センターの今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

歴代役員・職員

歴代理事長

- 初代 新熊 (昭和61年～平成3年)
- 2代 井町 康典 (平成3年～平成6年)
- 3代 仲野 芳晴 (平成6年～平成10年)
- 4代 松浦 進 (平成10年～平成18年)
- 5代 木村 勲 (平成18年～平成28年)
- 6代 池永 敏雄 (平成28年～)

歴代副理事長

- 中谷芳二郎 (昭和61年～昭和63年)
- 中野 正男 (昭和61年～昭和63年)
- 三浦 猛 (昭和63年～平成4年)
- 岡村 昌幸 (昭和63年～平成4年)
- 中村 金二 (平成4年～平成13年)
- 松浦 勝賢 (平成13年～平成15年)
- 陽 正和 (平成15年～平成17年)
- 藤井 康夫 (平成17年～平成19年)
- 田原 肇 (平成19年～平成22年)

歴代理事

- 安藤 新熊 (昭和61年～平成7年)
- 伊藤 久江 (昭和61年～平成3年)
- 栗田 樹二 (昭和61年～平成元年)
- 小西 幸夫 (昭和61年～平成3年)
- 鹿野 光子 (昭和61年～平成11年)
- 中村 金二 (昭和61年～平成4年)
- 中村 賢一 (昭和61年～平成3年)
- 溝口 隆男 (昭和61年～平成元年)
- 黒川健一郎 (昭和61年～平成4年)
- 長尾 久義 (昭和61年～平成4年)
- 三浦 猛 (昭和61年～昭和63年)
- 山口 一郎 (昭和61年～昭和63年)
- 岡村 昌幸 (昭和61年～平成元年)
- 田辺潤一郎 (昭和61年～昭和62年)
- 上田 正紀 (昭和62年～平成2年)
- 河内 治郎 (昭和63年～平成4年)
- 山近 成司 (昭和63年～平成4年)
- 稲尾 光男 (平成元年～平成2年)
- 河村 寛次 (平成元年～平成4年)
- 斎藤 眞治 (平成2年～平成7年)
- 高橋 吉彦 (平成2年～平成4年)
- 松田 仁子 (平成3年～平成9年)
- 岡田 仁子 (平成3年～平成9年)
- 大台長太郎 (平成3年～平成12年)
- 白上 岩男 (平成3年～平成13年)
- 新前 豊 (平成3年～平成4年)
- 戸田 保夫 (平成3年～平成4年)

- 吉津 新一 (平成3年～平成4年)
- 松浦 芳晴 (平成4年～平成5年)
- 植田 悟 (平成4年～平成7年)
- 三好 幸男 (平成4年～平成11年)
- 近藤 通子 (平成4年～平成11年)
- 杉村 重夫 (平成4年～平成11年)
- 小野 良夫 (平成4年～平成7年)
- 金子アキ子 (平成4年～平成11年)
- 波多野 昭 (平成4年～平成9年)
- 音吉 昭介 (平成4年～平成8年)
- 中原 富夫 (平成5年～平成7年)
- 森重 金光 (平成7年～平成9年)
- 中村 優 (平成7年～平成10年)
- 藤田 俊司 (平成7年～平成10年)
- 河野久美子 (平成7年～平成18年)
- 中野 了佑 (平成9年～平成13年)
- 溝部 浩 (平成8年～平成11年)
- 阿武キヨ子 (平成9年～平成15年)
- 藤山 哲雄 (平成9年～平成10年)
- 山本 武生 (平成9年～平成10年)
- 中野 昭二 (平成10年～平成14年)
- 花田 憲彦 (平成10年～平成15年)
- 陽 正和 (平成17年～平成19年)
- 清水 明人 (平成10年～平成13年)
- 大賀 眞治 (平成11年～平成15年)
- 大伴 田夫 (平成11年～平成13年)
- 小林 正治 (平成11年～平成13年)
- 神野 照子 (平成11年～平成13年)
- 臺田 昭 (平成11年～平成15年)
- 長嶺 一重 (平成11年～平成13年)
- 松浦 巖 (平成11年～平成16年)
- 伊藤 節男 (平成13年～平成17年)
- 大崎 弘美 (平成13年～平成17年)
- 水津 初江 (平成13年～平成17年)
- 山本 達雄 (平成13年～平成17年)
- 山根 登 (平成14年～平成17年)
- 鮎川 武夫 (平成15年～平成17年)



シルバー人材センター
シンボルマーク



30年のあゆみ

- 1986 (昭和61年)**
 - 8.20 社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センター設立
 - 9. 1 萩事務所 (兼萩支所)・長門支所・三隅支所を開設 (萩事務所 萩市大字江向43番地)
 - 9. 6 社団法人の設立許可書が山口県知事から交付される
 - 9.10 法人としての登記完了
 - 10. 1 シルバー人材センター法制化 (「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」にシルバー人材センターに関することが初めて規定された)
- 1987 (昭和62年)**
 - 5.27 長門支所、三隅支所を長門事務所、三隅事務所に変更
 - 9.24 広域会報「いぎいぎ」を発刊
 - 10. 5 サンライフ萩の建物の竣工に伴い、主たる事務所をサンライフ萩内に移転 (萩事務所 萩市大字江向523番1)
- 1991 (平成3年)**
 - 1.10 会報「いまだ青春」を発刊
 - 4. 1 会費の改定 1,000円から1,200円に変更
 - 5.27 社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センター設立5周年記念式典挙行
- 1992 (平成4年)**
 - 3.25 社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センターを社団法人萩広域シルバー人材センター (構成市町村 萩市・阿武町・むつみ村) と社団法人長門地区広域シルバー人材センター (構成市町村 長門市・三隅町・日置町) とに分割・再編するに当たり、財産の引き継ぎに関する協定を締結
 - 4. 1 社団法人萩広域シルバー人材センター発足 (萩事務所・阿武出張所・むつみ出張所)
- 1996 (平成8年)**
 - 3.28 ワークプラザ萩が現在地 (萩市山田4253番1) に完成し事務所を移転する
- 1998 (平成10年)**
 - 4. 1 国補助金が以後3年間にわたり10%ずつ削減される
- 1999 (平成11年)**
 - 4. 1 市補助金が以後3年間にわたり10%ずつ削減される
 - 事務費を5%から8%に改定
- 2000 (平成12年)**
 - 5.29 親睦会発足
- 2001 (平成13年)**
 - 7. 6 担当理事制度発足 (広報・就業・安全・家事)
- 2002 (平成14年)**
 - 10. 4 観光班が「萩おもてなし大賞」(萩ケーブルネットワーク株式会社、萩おもてなし推進協議会主催) を受賞
- 2004 (平成16年)**
 - 9. 1 社団法人萩広域シルバー人材センターと社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターが統合に関する協定を締結
- 2005 (平成17年)**
 - 4. 1 社団法人萩広域シルバー人材センターと社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターが統合し、新社団法人萩広域シルバー人材センターが誕生 (萩事務所・阿武出張所・むつみ出張所・須佐事務所・田万川出張所)

- 明 壽 (平成2年~平成5年)
- 北村 一郎 (平成2年~平成4年)
- 田中 森重 (平成4年~平成7年)
- 伊藤 了祐 (平成5年~平成7年)
- 杉村 正美 (平成7年~平成9年)
- 高杉 勇 (平成9年~平成10年)
- 竹中 勤 (平成10年~平成15年)
- 豊田 正和 (平成10年~平成13年)
- 松浦 綾子 (平成11年~平成15年)
- 伊藤 敏男 (平成13年~平成15年)
- 松原 浩 (平成15年~平成17年)
- 岡村 良夫 (平成15年~平成17年)
- 田中 清子 (平成17年~平成18年)
- 山相 敏行 (平成17年~平成21年)
- 小野 悦子 (平成18年~平成23年)
- 龍門 正勝 (平成21年~平成22年)
- 伊藤 安子 (平成22年~平成28年)
- 金子 肇 (平成23年~平成28年)
- 中村 季志 (平成23年~平成28年)
- 増野 宏征 (平成28年~)

歴代事務局長

- 明 昭 (昭和61年~平成2年)
- 吉野 昭介 (平成2年~平成8年)
- 清部 洋 (平成8年~平成11年)
- 木村 進 (平成11年~平成12年)
- 中村 昌幸 (平成12年~平成15年)
- 小田 達雄 (平成15年~平成17年)
- 渡辺 明 (平成17年~平成21年)
- 小茅 和男 (平成21年~平成25年)
- 森田 一宏 (平成25年~平成28年)
- 森田 直人 (平成28年~)

- 達雄 (平成15年~平成17年)
- 原 勝志 (平成15年~平成18年)
- 山見 豊 (平成15年~平成19年)
- 伊藤 勇 (平成17年~平成20年)
- 杉村 廣太郎 (平成17年~平成19年)
- 高杉 勇夫 (平成17年~平成21年)
- 竹中 薫 (平成17年~平成19年)
- 榎 幸夫 (平成17年~平成21年)
- 豊田 滋 (平成17年~平成23年)
- 松浦 泰 (平成17年~平成18年)
- 伊藤 富之 (平成18年~平成22年)
- 松原 純二 (平成18年~平成21年)
- 岡村 久 (平成18年~平成21年)
- 田中 靖彦 (平成19年~平成23年)
- 山相 孝美 (平成19年~平成23年)
- 小野 昇 (平成19年~平成23年)
- 龍門 昌雄 (平成19年~平成21年)
- 伊藤 三夫 (平成21年~平成26年)
- 金子 勝子 (平成21年~平成28年)
- 中村 久一 (平成21年~平成28年)
- 増野 公照 (平成21年~平成28年)
- 長山 雅範 (平成21年~平成23年)
- 湯本 重男 (平成22年~平成23年)
- 村木 泰雄 (平成27年~平成28年)
- 中村 隆次 (平成28年~)
- 長岡 繁雄 (平成28年~)
- 長谷 義明 (平成28年~)
- 藤田 和子 (平成28年~)
- 堀永 孝春 (平成28年~)
- 吉屋 哲夫 (平成28年~)

歴代監事

- 山本 定介 (昭和61年~平成2年)
- 水津百合信 (昭和61年~平成4年)
- 田村 守 (昭和61年~平成2年)

30周年記念表彰受賞者

- 会員 (3名)**
 - 在会20年以上
 - 豊田 滋
 - 石丸 吉人
 - 藤合 幸真
 - 在職30年以上
 - 末益 幸助
 - 堀 雅子
 - 在職20年以上
 - 長岡 修
- 職員 (3名)**

2006 (平成18年) 4. 1 財務5か年計画開始 (平成18年度から22年度まで) 県補助金削減開始

10.30 社団法人萩広域シルバー人材センター設立20周年記念式典挙行

2007 (平成19年) 4. 1 須佐事務所を須佐出張所に変更 会費の改定 1,200円から3,000円に変更

2009 (平成21年) 国の行政刷新会議において、シルバー人材センターに対する国補助金が事業仕分けの対象となり、総額で22億円が削減、翌年も23億円が削減される

10. 7 山口県シルバー人材センター連合会より模範センターとして表彰を受ける

2010 (平成22年) 9.29 山口県知事より事業発展の模範センターとして表彰を受ける
3.31 県補助金廃止

2012 (平成24年) 4. 1 公益社団法人に移行

2013 (平成25年) 4. 1 労働者派遣事業開始

2014 (平成26年) 4. 1 事務費を8%から11%に改定

2015 (平成27年) 12. 1 職員による不正経理事案が発覚

2016 (平成28年) 9. 1 萩広域シルバー人材センター設立30周年
10. 1 シルバー人材センター法制化30周年

須佐・田万川統合までのあゆみ

1996 (平成8年) 10. 1 須佐町高齢者人材活用センター設立

1999 (平成11年) 4. 1 須佐町シルバー人材センターに名称変更

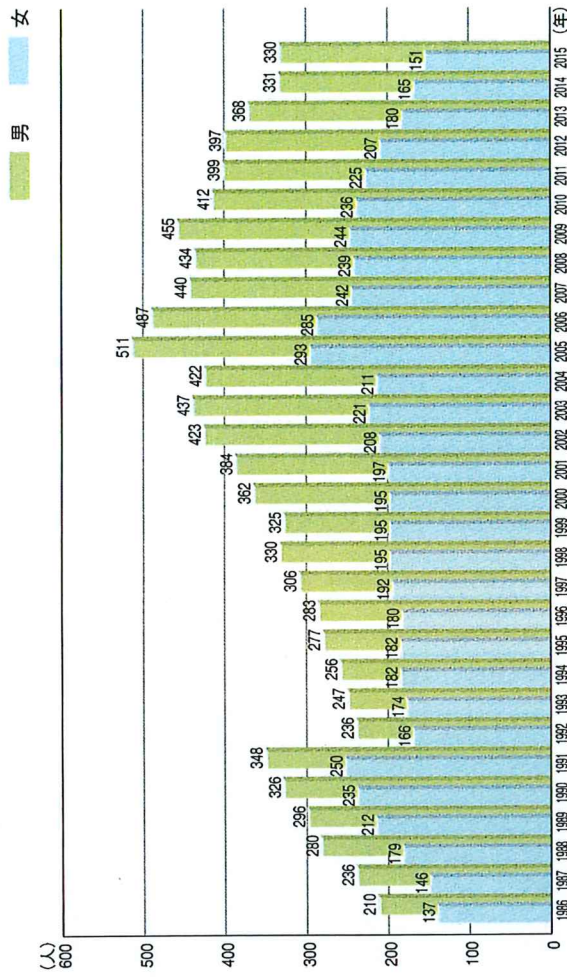
2000 (平成12年) 5.17 シルバー人材センターの業務対象範囲を田万川町にまで拡大することし、名称を須佐・田万川広域シルバー人材センターに変更

2001 (平成13年) 6. 8 法人認可に伴い社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターに名称変更

2004 (平成16年) 9. 1 社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターと社団法人萩広域シルバー人材センターが統合に関する協定を締結

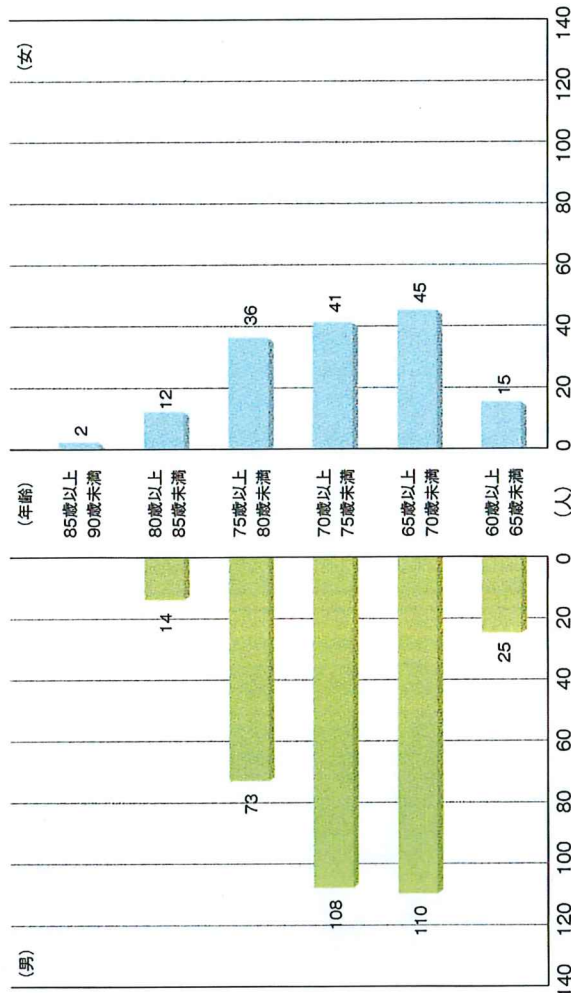
2005 (平成17年) 4. 1 社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターと社団法人萩広域シルバー人材センターが統合し、新社団法人萩広域シルバー人材センターが誕生

会員数の推移 (男女別)

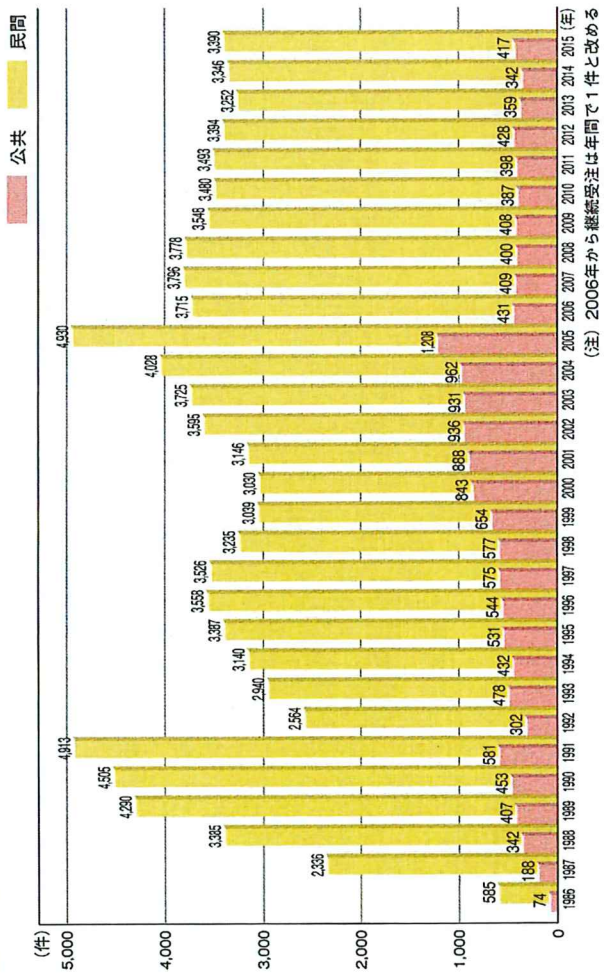


男女別・年齢別会員数

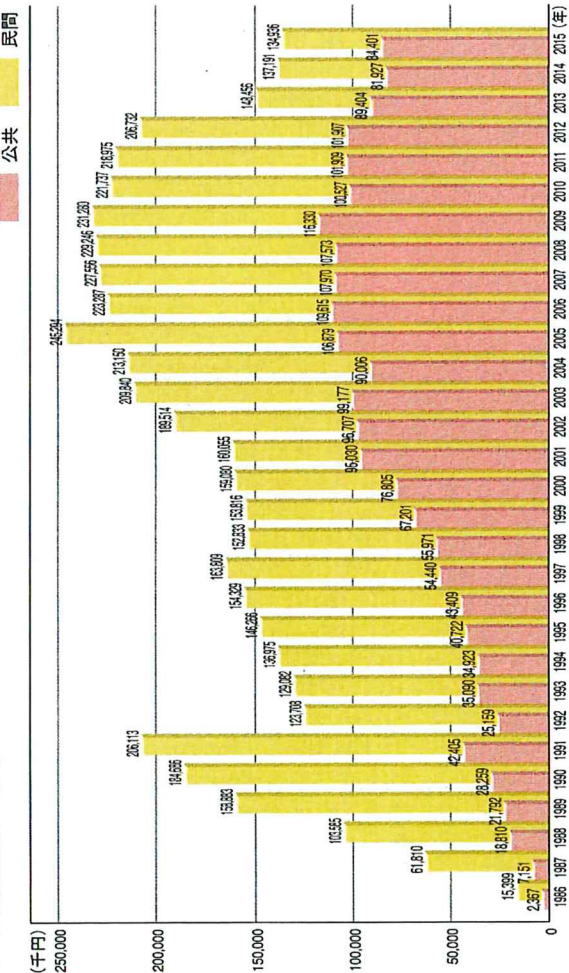
2016年(平成28年)3月末現在



■ 受注件数の推移 (公共・民間別)



■ 契約金額の推移 (公共・民間別)



会員になって思うこと

旧むつみ村役場に勤務していた平成3年の暮れ、萩市から萩市・阿武郡を含めた広域のシルバー人材センターを作るが入らないかと誘いがあった時、むつみ村でも高齢化が進みつつあったので即座に参加を願いました。

年明けから会員の募集・事務高員の人選とちよと忙しかったが、年度当初の加入に間に合った。60歳になって私も会員になり、山奥の教育施設で仲間と二人で管理の仕事をしたが、今までと違い自然の中で仕事は楽しかった思い出がある。

ちよと一年で他の人と交代し別の仕事に移ったが、今までの職場では味わえない開放感と様々な人達との交流はまた格別であった。

当時は公共の仕事も限られていたが、今は二人に一人が高齢者の中で草刈りなど家の周りの整理とか仕事の種類は増えたものの、会員の減少で対応しきれないということでもっともない気がする。配分金ももらうだけではなく、人との交流もあるのだが...



むつみ地区会員
小野 良夫



須佐地区会員
長安 恵有

最近のこと

先日敬老会のお知らせが来ましたが、ものすごく不愉快になりました。何故か、敬老という言葉に八つ当たりです。孫にジジイと呼ばれてもなんともないのですが、敬老この二字から受ける印象は私としては90歳くらい感覚です。やたらぶつづつ憤懣やる方ない、怒り心頭、誰が出席するものか！そこで一言愚妻のたまたまに、十分に老人でしよ。馬鹿なことを言うな、蜂の巣をとるのに蛇のようになくねえ！さっさと天井裏を行ったり来たりできるんだぞ。世間的には老人です。自分が勝手に思っているだけ怪我をしないうちに引退したら。(無言) おぬしそれを言うか。30周年になるそうですね。

今年が喜かったですね、ここ何年か毎年同じ事を言っているようです。そんなことを思うのは私だけですかね。昔はこんなこと何でもなかったとか、去年は出来たのになどと言いがましい言葉が遠慮なく飛び出してきました。事実が半分、その裏返しの見栄半分。そんな自分を感じることが何とも寂しく、追りくる老いに追い回されて戸惑い逃げよう、もかき苦しんでいる、逃げ切れないまでも何とか追いつかれないように頑張っているつもりが体力の消耗を早め老いを招く。自分にさらに追い打ちをかけ何をやっているんだらうか、先の見えた人生楽しく生きていくにはどうすればいいの、最近特に考えるようになってきている。やっぱばり年をとったのかなあー？やだやだ、こんなことを考えていると本当に敬老会に行くよくなる。それだけは何としても避けたいと15年は、シルバーの仕事は楽しいよ、あそこでももらえて、お金までいただける。俺も人様のお役に立っているんだなと実感する瞬間。こんなに喜んでお金までいただける。俺も人様のお役に立っているんだなと実感する瞬間。影法師に聞いてみる。うぬぼれてはいないか独りよがりになっていないか...訂正のきかないところまで来ていて。あと少し頑張ろう。どうかな影法師君、ともに手を取って太陽に向かって、大手を振って邁進しようじゃないか。くれぐれも安全作業でその時まで頑張ろう。ニコッと笑って幕を引いたら最高だぜ、出来るかどうかこれからが正念場だよ。

我が道

シルバー人材センター設立30周年を迎え心よりお祝い申し上げます。シルバー人材センターへ入会して19年になります。

その間、良き人々と出会い色々な仕事をさせていただきました。皆様と巡り合っただけで、今があると感謝しています。現在は櫻・陣子・網戸等の貼替え、発注者の要望にこたえることが、一番大事な仕事です。皆様とお互いの輪の中で、自我を捨て、人情のある職場で楽しくさせてもらっています。通り直しのきかぬ道ゆえ今日も頑張っています。健康でよく笑い感謝を忘れず。



三村ミサヲ
萩地区会員

高齢化の中で気持のよい人になりたいと思います。年を重ねても自立して無駄のない、無理せず自分の役割を果たして行きたいと思っています。今後ますますのご発展をお祈りいたします。



平成28年度はシルバー人材センター法制化30周年

本年は、当センターの前身の社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センター（昭和61年9月設立）設立後30年となりますが、同時に「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正によりシルバー人材センターが法制化（昭和61年10月1日施行）されてから数えて30年を迎える節目の年でもあります。

これを記念し、公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会及びシルバー人材センター各都道府県連合では、「シルバー人材センター法制化30周年記念事業」として、10月の「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」において、全国のシルバー事業関係者が連携して一斉に社会貢献・周知広報の行事を展開することにより、シルバー事業の社会的意義や活動内容について地域社会の理解を深めるとともに、センターに未加入の高齢者の方々の入会促進を図る活動に取り組んでいくこととしています。

これを受け、公益社団法人萩広域シルバー人材センターといたしましても、10月を中心に萩事務所・阿武出張所・むつみ出張所・須佐出張所・田万川出張所ごとに、それぞれの地域で公共施設・公園・保育園等の草刈、草取、剪定、障子の張り替えなどの無償ボランティア活動や、商業施設において、もしくはイベント開催時等にシルバー事業の周知普及、センター未加入の高齢者に対する入会勧誘活動等を実施していきます。

会 員 募 集

～ 生きがいと地域のニーズを結びます ～

あなたの豊かな知識と経験を、地域社会のために、誰かのために活かしてみませんか。年齢を感じさせない行動力、新しい可能性に挑戦していく好奇心、まだまだ現役の、働く意欲にあふれたあなたをお待ちしています。

萩市・阿武町にお住まいで、おおむね60歳以上の健康で働く意欲のある方ならどなたでも入会できます。「自分の新しい可能性に挑戦したい」「地域の一員として社会貢献がしたい」「さまざまな世代の人々と交流がしたい」そんな積極的な社会参加を希望するみなさんのご入会を心よりお待ちしております。

公益社団法人萩広域シルバー人材センターは、

- ※高齢者にふさわしい仕事を家庭・企業・公共団体等から引き受け、会員に提供する公益法人です。
- ※働くこと以外にも美化活動などの奉仕作業を通して地域社会に貢献しています。
- ※少子高齢化社会の中で若い世代を支援し、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支えています。
- ※自主的な会員組織です。会員は自ら組織や事業の運営に参画します。
- ※就業や収入の保障はありませんが、自分の意志で各人の希望と能力に応じた働き方ができます。

編集後記

公益社団法人 萩広域シルバー人材センターは、1986年（昭和61年）9月に設立され、分割、再編、統合といった組織の変遷を経て今年で30周年という記念すべき年を迎えました。

編集にあたる中で、萩地域が人口減少、少子高齢化が進む地域社会現状において、当センターの役割は重要不可欠で、これまでのセンターの果敢な活動には称賛いたします。これも、会員、役員、職員のみなさんの努力の賜物と思えます。また、業務発注者のご支援があつてのことと感謝いたす次第です。

この記念誌が、これからの当センター関係者のみなさんの糧となれば幸いです。

本誌の編集にあたりましては、関係各位よりご祝辞を賜りお礼申し上げます。また会員の皆さんから心暖まるご寄稿をいただき誠にありがとうございました。 広報委員会 委員長 長岡 繁雄

広報委員会構成員

委員長	長岡 繁雄
委員	長谷 義明
委員	豊田 滋
委員	西村 弘義
委員	森田 直人
委員	森田 一宏

公益社団法人 萩広域シルバー人材センター

設立30周年記念誌 あゆみ

発行日 平成28年10月吉日

編集 公益社団法人 萩広域シルバー人材センター
広報委員会

発行 公益社団法人 萩広域シルバー人材センター
印刷 有限会社 松陰堂印刷所

(表紙題字は中村理事長)